（様式２）

令和４年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和　5　年　3　月　6　日

国際交流推進センター長　殿

事業責任者（申請者）

所　　　属　　経済学部

職　　　名　　教授

氏　　　名　　中村博和

下記のとおり令和４年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	佐賀大学・貴州民族大学協定締結に伴う研究者・学生国際交流集会 ―中小企業のイノベーションと課題―		
2.事業責任者 （申請者）	中村　博和 谷　晶紅	3.所属・職名	経済学部　教授 経済学部　准教授
4.開催期間	令和　4　年　12 月　19 日　～　令和　4　年　12　月　19　日		
5.申請区分	A）学術交流協定（大学名）		
6.参加者数 ※参加者名簿（別添）を添付	参加者数　176　名 内、外国人数　110　名、研究者数　14　名、 学部学生数　105　名、修士以上学生数　41　名		
7.招待講師	所　属　貴州民族大学　商学院 職　名　准教授 氏　名　令狐　克叡		
8.支出額	金　額　250,000　円 【内訳】 謝金　99,000　円 旅費　0　円 設備費　151,000　円		
9.国際研究集会の内容			
集会の前半では、佐賀大学経済学部中村博和教授と貴州民族大学商学院令狐克叡准教授はそれぞれ「日本と佐賀の中小企業の現況と課題」、「デジタル化が中小企業のイノベーションへもたらす影響」について発表を行った。パネルディスカッションでは 2 つの発表について、研究者と大学院生は活発的な質疑応			

答および議論が行われ、今後の共同研究の可能性について言及された。後半では、佐賀大学経済学部の学生と貴州民族大学日本語学科の学生はそれぞれ「日本の大学生就職事情」、「中国の大学生の就職事情ー地方公務員を目指す」、「学校の心理分析師を目指す」、「ライブコマースとキャリアプランー中国大学生の TikTok の活用」についての発表がされた。
10.事業実施による成果・今後の事業の発展等
前半の研究者発表は地域経済発展についての共同研究の促進だけではなく、参加者全員に日中両国の共通課題である中小企業の発展問題を考える機会を提供できた。さらに、パネルディスカッションでは両国の共通課題である少子高齢化問題、AI 導入の影響、グローバリゼーションなど共同研究が可能なテーマを提示することで研究交流を広げ、日中の若い世代の研究者育成につなげていくことができたと思われる。また、長年日中友好交流活動に携わってきた佐賀日中友好交流協会の理事にパネルディスカッションに参加・発言してもらうことによって、大学間のみならず、地域全体の幅広い交流の発展に貢献することができたと予想される。さらに、学生たちの交流では、当日午前中に挙行される両大学協定締結調印式および国際交流の様子を画像にて、研究者・学生交流会で紹介し、協定締結に対する意識を高め、相手国の言葉、文化、経済に興味を持ってもらい、交換留学の増加につなげた。 今後、不定期的に研究者間や学生間の交流を開催し、共同研究などを行っていく予定である。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。